

看護学部

2016(平成 28)年度 看護学部自己点検・評価中間報告書

(1.「学習成果の可視化」に向けた取り組み)

(1) 現状の説明

① シラバスの「到達目標」はすべての科目について整備され、学生に周知されている。

② 看護学部ではラーニング・アウトカムズがまだ未作成である。

③ AP (大学教育再生加速プログラム) 事業への取り組み

看護学部では 2016 年前期よりアセスメント科目として 1 年生にマイルストーン科目(健康と生活)における AP の取り組みを開始した。全学共通の「自己評価ルーブリック」に、学部独自の項目「看護師へのキャリア成熟性」を加え、マイルストーン科目の授業はじめと終りに調査を行った。またポートフォリオ作成を行い、授業進行に合わせて、アセスメントシートとして、「学び始めシート」、「中間振り返りシート」、「リフレクションシート」、「自己成長記録シート」を受講生に配布し記入を求め、受講生同士の小グループでの相互評価や共有の時間を授業内に設定した。また、今年度前期のマイルストーン科目での取り組みを経て、8 月下旬に同僚会議を開催した。2017 年 2 月に報告書を作成した。(資料 1 添付)。

④ 看護技術・看護実践力到達度評価表の作成と調査の実施

本年度、学習成果の可視化を目指して、「看護実践能力のアセスメント」ツールとして学部教務委員会看護実践力ワーキング・グループにて「看護技術到達度評価表」と「看護実践力到達度評価表」を作成した。前者は、昨年度、学部看護技術検討委員会にて作成した「看護技術到達度チェックリスト」を基に作成し、後者は文部科学省の報告書(平成 23 年 3 月 11 日大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会最終報告「学士課程におけるコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」と日本看護系大学協議会の報告書(平成 24 年 3 月大学卒業時到達度の評価手法開発のための調査研究報告書)を参考にして本学部のカリキュラムポリシーを考慮して作成した。ともに自記式の質問紙調査票であり、看護学部卒業予定者 75 名を対象に 2016 年 12 月 14 日集合一斉調査を行った。有効回答率は 100%であった。(資料 2 添付)。

(2) 点検・評価

① 効果が上がっている事項

・マイルストーン科目における学期はじめの調査を通して、大学生としての自覚・新しい仲間作りに対する準備性が高いことが判明した。本科目ではグルー

プ学習、発表、仲間とのリフレクションによる個人の学びの共有を行い、学期おわりの調査で、貢献、協調、協働等の自己評価が高いことも判明した。

② 改善が必要な事項

・本学部ではラーニング・アウトカムズの作成を行っていく必要がある。「看護実践力到達度評価表」の項目を手がかりに、ディプロマポリシーに適合する内容で作成していきたい。

・今回の看護技術・看護実践力到達度調査は、卒業対象学生に対してのみ行ったが、教員が期待する技術と実践力を調査し、学生の自己評価と教員の評価の差異を検討することで教育上の課題を明らかにする必要がある。また効果的な実習を行うために、本看護技術・看護実践力到達度調査に沿った技術と看護実践力修得において、1年時の基礎看護学実習Ⅰから4年時の看護実践統合実習にいたる各レベルでの目標を示す必要があるため、今後、各学年での調査も検討する。看護実践力ごとに学年ごとの学習到達目標を示すことで、学生の目標設定に貢献でき、各専門科目と看護実践力との繋がりを明らかにすることにも寄与すると考えられる。

(3) 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

カリキュラム改正の資料となる看護技術・看護実践力到達度評価のツールを作成できたことは評価できる。今後しばらく同一の到達度評価のツールを用いることで、教育方法改善の効果を評価していきたい。

② 改善が必要な事項

新カリキュラム作成に向けて、教育内容および教育方法・評価方法等に関する教員間のコミュニケーションや合意形成を更に図っていく必要がある。

(4) 根拠資料

資料1：2016年度 看護学部AP事業 マイルストーン科目における結果報告

資料2：創価大学看護学部 2016年度卒業生対象 卒業時到達度調査